

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	-	-	<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	-	-	<b>2.6</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温		<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	-	-	<b>3.2</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙としている	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	-	-	<b>2.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>2.3</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室天井高2.7m	<b>4.0</b>	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		<b>2.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画		<b>1.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、汚水排水VP(B)、雑排水VP(B)、Eは不使用。	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.1</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.70	<b>5.0</b>	0.20	-	<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.65、LED照明設備を導入。	<b>4.5</b>	0.50	-	<b>4.5</b>
4 効率的運用				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>3.0</b>	1.00	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 水資源保護				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
1.1 節水				<b>3.0</b>	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				<b>3.0</b>	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				<b>3.6</b>	0.60	-	<b>3.6</b>
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ビニル床シート(床材)、タイル(床材)、再生路盤材料(路盤材)	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			躯体+LGS+仕上材のデテールを採用しOA707も採用している。	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				<b>3.5</b>	0.20	-	<b>3.5</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			PRTR法に該当しない建材種別が1つ以上ある。	<b>4.0</b>	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				<b>3.3</b>	0.70	-	
1 消火剤			窒素ガス消化設備を採用	4.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	
3 冷媒				3.0	0.33	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出率=75%	<b>4.0</b>	0.33	-	<b>4.0</b>
2 地域環境への配慮				<b>2.8</b>	0.33	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止				<b>3.0</b>	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				<b>3.0</b>	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				<b>2.3</b>	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	
3 交通負荷抑制				1.0	0.33	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33	-	
3 周辺環境への配慮				<b>3.2</b>	0.33	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				<b>3.0</b>	0.40	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	
2 振動				-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				<b>3.0</b>	0.40	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制				<b>4.4</b>	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			照明環境の検討体制に、照明の専門家が参加している 広告物照明には、効率の良い光源の使用を推奨している	5.0	0.70	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	